

## 大舞台を経験することと、さらに大きな目標へ向けて準備すること

夫 明美

少し古い話になりますが、6月のサッカーW杯における日本チームの活躍は日本中を熱狂させました。にわかファンの私も明け方に起きてゲームを観戦しましたし、徹夜で試合の行方を見守った学生も多かったようです。ニュース画像によれば、大阪の繁華街にもブルーのユニフォーム姿の人々が目立ちました。その中で、教員養成にも大切な2つのことを学びました。ひとつは、大きな舞台を経験すること、もう一つはさらに向上するために日ごろからの準備を怠らないことです。

W杯という大舞台における結果そのものも素晴らしかったですが、大会前の合宿や本大会、その中でさまざまな **trials and errors** を乗り越えて、チームワークがより強固になったこと、そのことにより個々の力が伸びたことが、大変印象的でした。試合後のインタビューでも各選手が異口同音に「チームワーク（ここには選手だけでなく、スタッフ全員が含まれています）の成果が出せた」とはっきりと明言していました。

大舞台で力を発揮するチャンスを得た選手は、その重みを感じながら自分のベストを尽くす。試合に出場するチャンスを逃した選手も、くさらずに「今、チームのために自分ができること」を自発的に考えて、積極的に行動する。指揮者は個々の力、方向性を理解しながら、全体としてまとまった力をより良き方向で発揮できるように指導する。それぞれが「与えられた立場で、全体のバランスを考えながら自分のベストを尽くす」姿勢にもっとも感銘を受けました。

大会後は、海外のチームに移籍して、さらなる飛躍を遂げようとする選手も多くいました。その中で特に印象的だったのは、日本代表ゴールキーパーの川島選手が、ベルギーのチームへの移籍会見を時にはドイツ語を交えながら英語で行っていたことです。サッカーというスキルの向上だけでなく、ゴールキーパーという立場＝他のフィールドプレイヤーとの意思疎通が重要な立場ということを自覚し、これまでに語学の勉強も重ねてこられた姿には、教えられるものが多かったように思います。「今、ここで」のベストを尽くしながら、次のチャンスへ向けて着実に準備を積んでこられたのだろうと推察しました。

W杯が行われていたころ、大阪女学院短期大学の教員志望の学生たちもそれぞれの教育実習先という大舞台で奮闘しておりました。お力添えいただいた実習校での **trials and errors** を経て、彼女らはたくましくなったように見えますし、実習後の模擬授業や、互いに与えるフィードバックにもその成果が表れているように思えます。貴重な経験を得たことを経て、次の目標設定へもつながっているようです。学生を指導する立場にある身としては、日本代表を例に挙げながら、以下の2点を一層心がけようと思いました。

1. 「日頃からの準備を怠らなければ、大舞台にもいどめる」
2. 「大舞台だけが最終ゴールではなく、そこからまた次の目標が生まれることを見据えて、準備を継続する」